

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター設立10周年

About us

～感謝の10年、そして、新たなスタートに立つ私たち～

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター
副理事長・センター長 佐塚 玲子

About us ～感謝と共に、皆さまにお伝えしたいこと～

- 10年前のAbout us よこはま地域福祉研究センター設立について
市内NPO法人からの分離独立/故泉一弘元理事長の存在/4名の職員による出発
- 問い続けた10年！人と地域社会の「しあわせ」
巨大な問いに向き合う/ニーズとポテンシャルへのこだわり/如何に共感を重ねるか
- NPO法人として中間支援を続ける魅力と困難性
社会を変える組織・事業戦略/人×もの×金の適切正当な確保/幸福感受性の胚芽

10年前のAbout us よこはま地域福祉研究センター設立

2012年（平成24年）市内に拠点を持つ中間支援組織としてのNPO法人からの分離独立を決意

<当時、NPO法人の誕生から10年あまりの年月が経過した横浜でした>

- 1998年特定非営利活動団体促進法⇔阪神淡路大震災後、20の市民力による非営利活動が期待され施行
- 2002年横浜市中田市政誕生⇔中期政策プラン「民のチカラが存分に発揮される都市・横浜の実現」
全事業を「民間主体型・民間主体協働型・行政主体協働型・行政主体型」で示し、民との協働がキーワードに
- 横浜市独特の3つの中間支援組織が次々発足（全国認証NPO50,523団体 神奈川県1,474団体 横浜市1,496団体 2022年8月現在）
「専門家型」×「テーマ型」×「地域型」分野間を横につなぐコーディネート・ネットワーク化・コミュニティの総合化

NPOで働いてきたからこそNPO経営の難しさを実感していました・・・

安定・継続的な事業にならない

経営の不安定化

専門性や必要労働力の確保の困難性

一人仕事や残業の恒常化・低報酬



でも・・・自治体や社協とは異なるミッションと方策
で誠実に仕事をやり遂げてきた自負もあった

社会に求められるNPOって？

NPOの職員も、地域社会の人々も
幸せになる仕事にしなければ！？

このままじゃダメだ！

10年前のAbout us よこはま地域福祉研究センター設立

2013年10月1日よこはま地域福祉研究センター認証 故泉一弘理事長（在任期間2012年10月～2015年8月）の存在

泉 一弘 元理事長

- 腎臓病の奥様介護と子育てのダブルケアラー
- マンモス集合住宅に市民活動で保育園設立
- 独立前のNPO法人の発展に尽力
(本業のスキルを活かして経営の健全化)

- 悪口を言わない
- 人間観察力・人の良いところ発見の達人
- お酒好き 皆で語り合うのが好き
- 決断と行動 優しい潔さ
- 人・地域のしあわせを願う

⇒泉さんに背中を押され
泉さんの人柄による、信頼関係があり
「やってみよう！」という勇気が沸き
独立できたと思っています！



佐塚さん
やっぴごらん！
武田さん、一緒に
頑張ろう！



故 泉 元理事長



太田元理事長

2015年10月～2016年3月

泉さん急逝時副理事長だった太田先生が、理事長に就任。2016年4月より京都の大学教授になられたことで、理事に。設立当初より、当法人の見守り役を続けています。



豊田理事長

2016年4月～現在

「地域福祉」を専門とし、大学や専門学校等、教育の分野に限らず、県域、市域の福祉専門職の人材育成にも長年に渡り携わる。福祉の発展、福祉人材の発掘・育成を願いネットワークを広げ尽力。

10年前のAbout as よこはま地域福祉研究センター設立

2013年4月1日 よこはま地域福祉研究センター事業発足！職員4名、2か月後、元法人職員1名加わり5名



築60年の古ビルですが人の良い大家さん、一緒に頑張っている1階のおしゃれ花屋さん、駅から3分の好立地 私たちの事務所です

10年前のAbout as よこはま地域福祉研究センター設立

NPO法人 よこはま地域福祉研究センター 定款より

■目的 ⇨多様な人と機関の連携による福祉充実・発展

広く一般市民や福祉事業に関わる実務者・研究者に対して、あるいは、市民・実務者・研究者とともに、地域福祉の調査・研究、人材育成、ネットワーク構築、福祉サービス評価に関する事業を行い、福祉の充実・発展に寄与することを目的とする。

■特定非営利活動の種類 ⇨20項目から7つ選択

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (5) 子どもの健全育成を図る活動
- (6) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (7) 前号活動を行う団体の運営、活動に関する連絡、助言、援助の活動

■事業

- (1) 調査・研究事業
- (2) 人材育成事業
- (3) ネットワーク構築事業
- (4) 福祉サービス評価事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

新法人の方向性を
固め申請する
ことができました

会員募集

種類・年会費

■研修会員：個人	3,000円
法人・団体	10,000円

この法人の目的に賛同し、入会した個人及び団体

■賛助会員：一口	10,000円
----------	---------

この法人の目的に賛同し、事業を援助するために入会した個人及び団体の方

一緒に福祉のこと考えませんか？



よこはま地域福祉研究センターは、調査研究活動を柱に、地域福祉推進、社会貢献につながる実践を目指しています。開かれた研究組織として、地域社会の諸問題を解決し、その発展を目指そうとする市民・福祉事業に関する実務者・研究者等とコミュニケーションを図り、知識・情報等を融合させた取り組みを行います。私たちの考えにご賛同いただける方、共に考え活動して下さる方を募集しています。

会員になっていただいた皆様には

1.総会へのご出席

前年度の annualreport をお送りさせていただきます。事業内容等をご覧いただきながら、他の会員の皆さまと新しい発想が生まれるようなお話ができればと思います。

2.当法人主催講座への無料参加

各事業ともに自主勉強会・講座を予定しており、会員の皆さまへはご案内をお送りさせていただきます。どれも参加費なくご参加いただく事ができます。昨年度は13回の講座が開催されました

会員募集は常に絶賛募集しています。
これは、現在の会員募集案内です。

About us 10年間、問い続ける！人と地域社会の「しあわせ」

危機の時代！社会はどこにむかっていくのか！人間の幸福とは！？ 巨大な問いに向き合う

危機の渦中において葛藤する人々

● 未来を信じられた時代 加速度的な進歩と発展 ⇒ 未来が信じられない時代 変化の減速と停滞

20世紀型の成長経済の再開を追求する慣性 ✕ 人口動態・経済・衰退する国力・自らの生きづらさ

社会不安自覚あるが、変えない・変えられない ✕ 新しい思想とシステム創造の必要性の認識と行動

経済格差の広がり ⇒ 絶望と厭世感の増幅 ✕ 経済依存しない幸福領域拡大（シンプル・ナチュラル・シェア・脱商品化等）

● 「幸福」の捉え方 ⇒ 産業化した物質的な成長の獲得 ⇒ 現在の生を喜びとして享受する（脱物質主義）

消費化資本主義の「有限性」への気づき ⇒ 新しい生産と分配 × 流通と消費の安定システム × 人・集団・社会・自然の間で互酬関係

社会の中で戦う日本家族（服従や役割分担）崩壊 + 世代間の距離接近（ファッション・教育・商品開発）・支え合う関係 × おひとりさまの生き方

働くこと ⇒ 「稼ぐための仕事」「成功のための仕事」 ⇒ 基本的な暮らしが成り立てば・・・「社会的な生きがいとしての仕事」

青年層 ⇒ 政治無関心/職場問題静観/地域問題静観 ⇔ 次世代の政治の装置と方式の「失効」危機？

生きることの意味・幸福を問い直す必要

経済的な富によって手に入れる種類の幸福 ⇒ 多様な幸福に対する感受能力の獲得・増強が必要！？

「選ばれた者 ⇒ 選ぶ者」「価値のある人間 ⇒ 価値を決める人間」「上流社会 ⇒ 無流社会」変化への営みに幸せが！？

About us 10年間、問い続ける！人と地域社会の「しあわせ」

過去の地域で、福祉現場で観た様々な人 「生きづらさ」は何故・・・？

生きづらい人々

- 心身の健康状態が不安定/虚弱
 - 生活の基盤（就労も）が脆弱・不安定
 - 家族との関係が悪い/断絶
 - 自己責任の内面化・絶望・あきらめ
- ⇨相談できると思っていない
⇨相談したいとおもわない

ハードルが高い「頼る」という行為

- 1 自分の現状を問題だと認識する
- 2 頼りたい相手が思い浮かぶ
- 3 実際に頼る、相談する



潜む多様な「貧困」

- 「普通」からの逸脱
- あるべきものがない、ということ

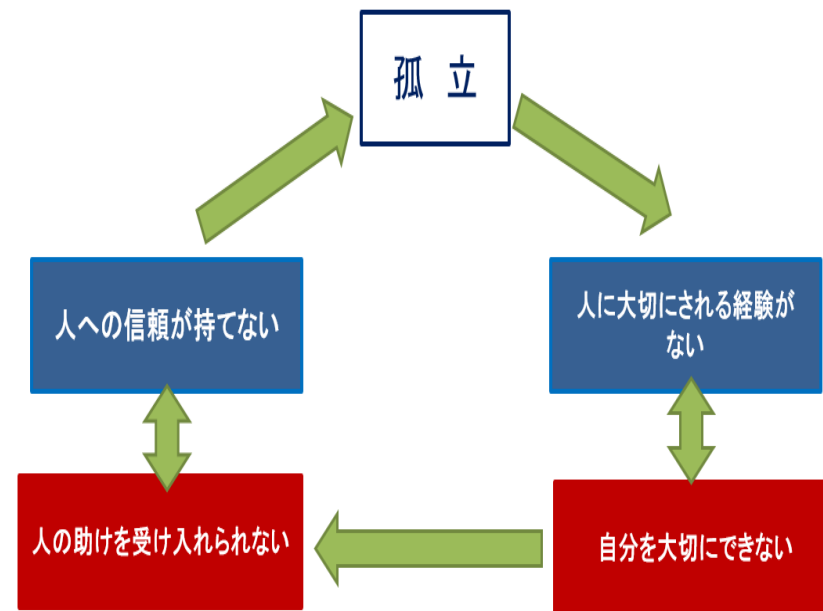
経済的貧困

関係性の貧困

機会・体験の貧困

自尊感情の貧困

孤立の広がりと遠ざかる共生

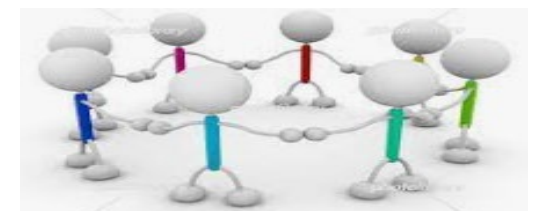
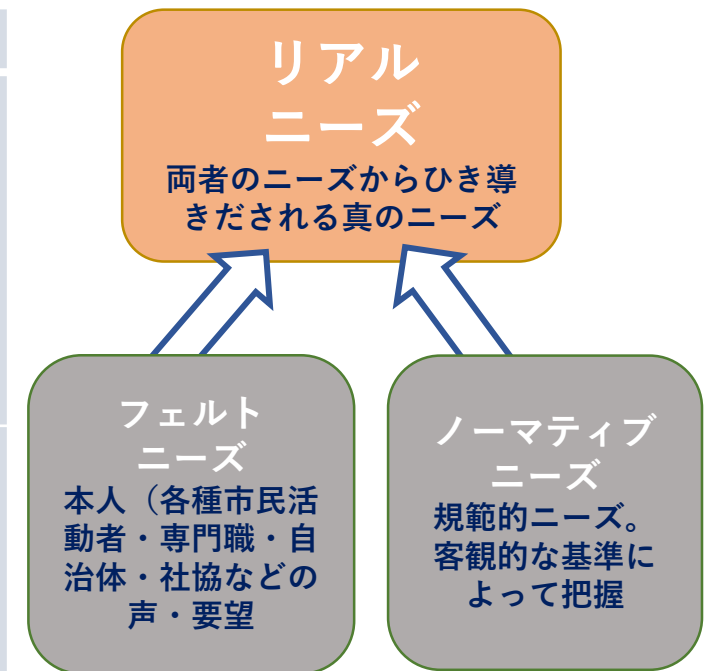


About us 10年間、問い続ける！人と地域社会の「しあわせ」

ウオンツ（自分たちがしたいこと） < **ニーズ**（必要とされること） ⇄ **ポテンシャル**（潜在的な可能性）の確認

私たちのすべき仕事の見出し方！行動へのつなげ方！成果を目指す仕事に！

成果を出す事業	職員 & 担当者が行うコト	準備として必ず行うコト
法人にかかわる 人や機関の共感 を得る	<p>■目的のデザイン■</p> <p><u>子どもPJ 子ども・若者の育ちと自立支援</u> 「育つチカラ生きるチカラを地域がエンパワ！」 多様な市民活動ネットワーク形成/研修&事例集</p> <p><u>障害PJ 障害児者の地域自立生活支援</u> 「ガチガチをゆるゆるに！弱さを大胆に！不安を可能性に！」 オンラインでつながるみんなの研修</p>	<p>■リアルニーズの確認■</p> <p>自分たちがしたいコト（ウオンツ）ではなく「必要とする人や状況から「あいだの人」として求められていることを行う</p> <p>⇒ <u>調査研究</u> ⇒ <u>制度政策確認</u> ⇒ <u>ヒアリング調査</u> ⇒ <u>コアメンバー会議の開催</u></p>
多様な 人や機関の参画 を得る	<p>■場や機会をデザインする■</p> <p>⇒ <u>エリア（地域）の選択</u> 全国/神奈川県/町内会？ ⇒ <u>方法の選択</u> 調査・研修・イベント・冊子制作 ⇒ <u>SNS活用</u> ⇒ <u>資金調達</u></p>	<p>■ポテンシャルの確認■</p> <p>⇒ <u>つなぐれそうな人や機関</u> ⇒ <u>Winwinの関係による社会効果</u> ⇒ <u>イノベーション(革新) or メンテナンス(保守)の選択</u> 事業後に起きるであろう状況の想定（見直し） ⇒ 次のステップにつなげる計画</p>
変革の実現	<p>■成果の検証</p> <p>⇒ <u>成果要因の分析</u> ⇒ <u>次のステップの模索</u> ⇒ <u>体制の点検（職務分掌やスキルアップ）</u></p>	<p>■目標設定の見直し</p> <p>⇒ <u>成果が出にくかった場合</u> ⇒ <u>成果が出た場合</u> ⇒ <u>プロセスの課題検証</u> 等による目標設定の見直し</p>



About us 10年間、問い続ける！人と地域社会の「しあわせ」

「対話」によって如何に共感を重ねるか！？そして・・・ 共感から協働へつなげられるかが鍵！

気づく！不可欠な仕事のなかでコミュニケーションを活発にすること

●コミュニケーション促進の為にコミュニケーション力が大切

自分の言葉で人と向き合って、互いの違いや共有できるところを確かめ合うコミュニケーションを日常的に

●対話×対話×対話へのこだわり 対話＝話す×聴く 話して、聴かなきゃ対話じゃない！

●会議や交流会の落とし穴 「沈黙」を回避すること 皆さんはどうしていますか？

5つの要因の回避①遠慮 ②恐れ ③何を話せばよいかわからない ④考え中 ⑤早く帰りたい

取り組みの中で生まれた 私たちの行動指針

行動指針 STANCE

「対話」 × 「創意工夫」 × 「行動」

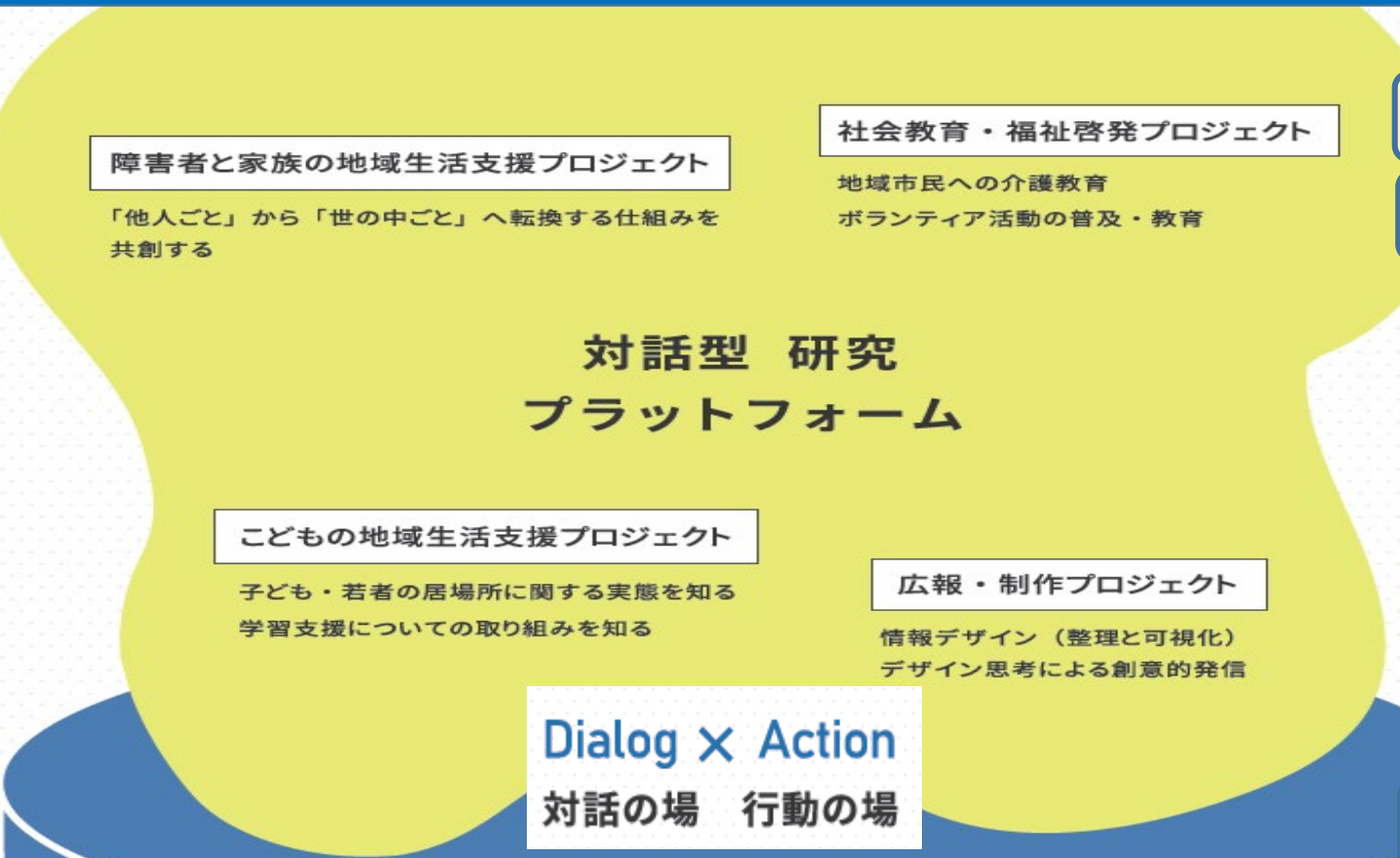
1. 今を知るために調査・研究に取り組みます
2. 丁寧に信頼関係を築き、質の高いネットワークを構築します
3. 多様な地域の特徴を知り、客観的な分析と提案をします。
4. 観察力を持って企画・行動へのプロセスを実践します。
5. 真の対話を怠らず、創意工夫から新しい方策を模索し続けます。

ニーズとポテンシャルの発見 + 共感と協働の創出 + 真のネットワークへの発展

- 総会・理事会・事務局会議
- プロジェクトミーティング
- プロジェクトコア会議
- 法人勉強会（会員）

- 調査・研究
- ヒアリング・グループインタビュー
- イベント企画・実施
- 研修企画・実施

- 事例集制作
- 報告書制作
- HP・アニュアルでの発信



- 外部委員会等への派遣
- 外部機関事業 講師派遣

- 法人コンサルティング
- 自治体事業コンサルティング
- 他機関との協働事業参画

- キャリアアップ支援
- 仕事・家庭・学びの両立支援



ニーズとポテンシャル発見

調査・研究

より良い働き方の模索

About us NPO法人として中間支援を続ける魅力と困難性

社会を変える組織・事業戦略⇒「共通の目的・意欲・助け合う気持ち」を大切に

目指す社会像

VISION

暮らしの中で
誰もが
「しあわせ」を感じ
共に生きる社会

わたしたちの考える役割

MISSION

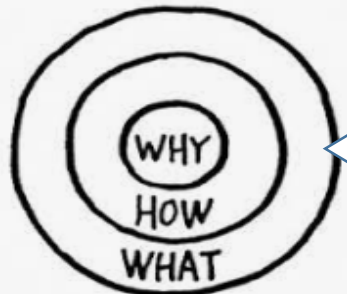
「あいだの人になる」

行動指針

STANCE

対話×創意工夫×行動

1. 今を知るために調査・研究に取り組みます。
2. 丁寧に信頼関係を築き、質の高いネットワークを構築します。
3. 多様な地域の特徴を知り、客観的な分析と提案をします。
4. 観察力を持って企画・行動へのプロセスを実践します。
5. 真の対話を怠らず、創意工夫から新しい方策模索し続けます。



サイモンシネックのゴールデンサークル

事業を進めるには、(WHY) を定めることを鉄則に
どのように (HOW) 成果を上げる事業を行うのか、更に具体的に何を (WHAT) を
明確にして進めます

About us NPO法人として中間支援を続ける魅力と困難性

人×もの×金の適切・正当な確保

作業と「仕事」は違います！ よこはま地域福祉研究センターは仕事をする集団

小さな組織の私たち。作業は、沢山あります。しかし、指示を受けて行う「作業」も、職員皆が、指示を受け止め、業務全体、あるいは法人全体に対して、この「作業」を通して貢献しようという自発的な意思をもつ職員集団でなければ運営継続・発展はありません。⇒そういう「仕事」を積み重ねる職員が働いています。

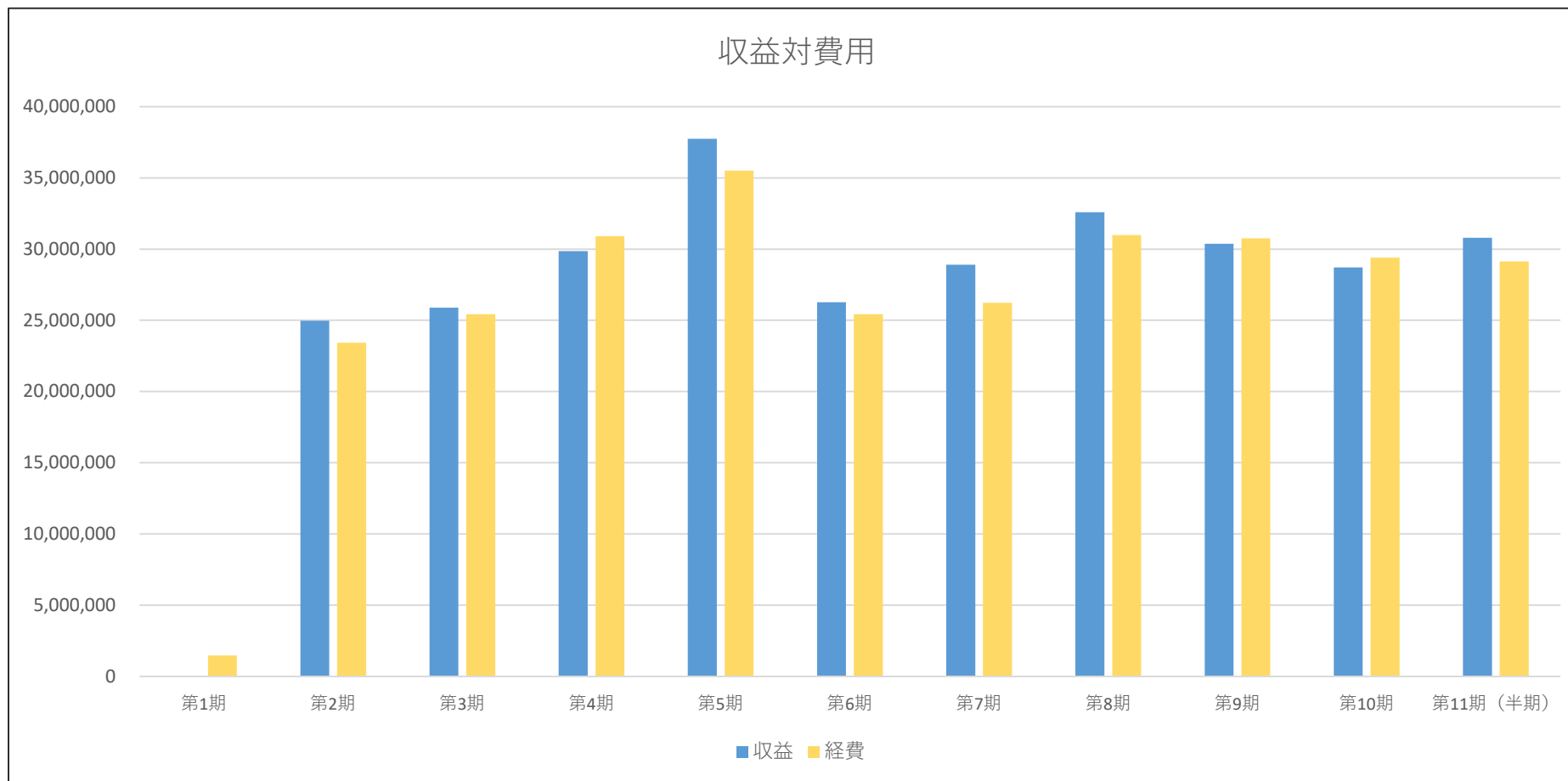
職員にとってやりがいのある「仕事」にするには、法人が成果を担保すること

働きやすい労働環境の整備について声高にその必要が叫ばれます。
決まった売り物がない中間支援NPO法人の弱みは「財務」。そのため人材確保ができず、低賃金の上のオーバーワークに陥りやすい現状があります。現状に甘んじるつもりはありません。が、ニーズとポテンシャルを正しく掴み、共通の目的・意欲・助け合う気持ちを職員間で持ち続け、納得できる達成感を得て、仕事にやりがいを持てるよう法人運営をおこなっていきたいと思っています。

NPO法人の仕事を NPO法人としての中間支援の仕事を社会により発信し、妥当性のある収益につなげたい

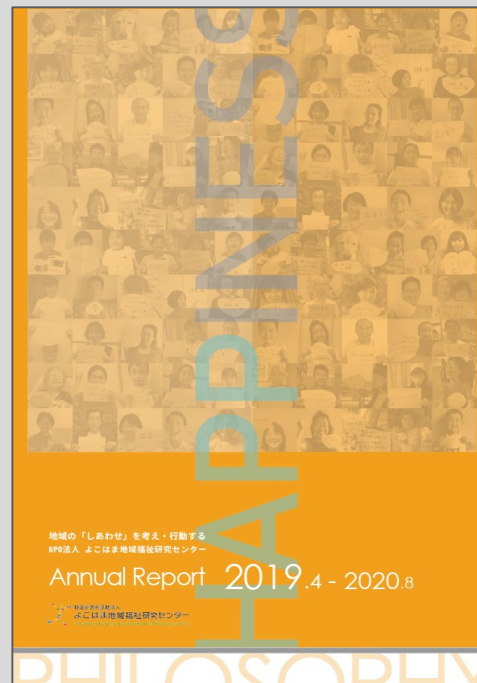
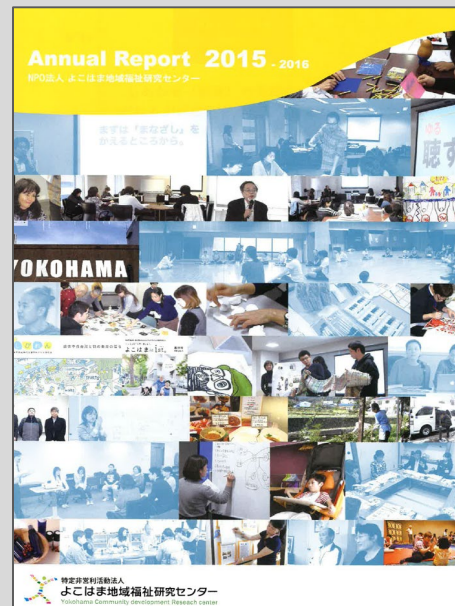
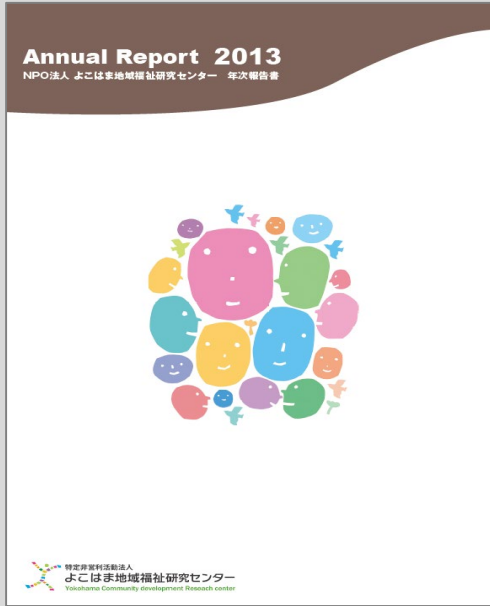
NPO法人やNPOの職員の努力はもちろん必要です。誠実に透明性のある法人運営を続けます。しかし、私たちは、往々にして様々なジレンマを感じます。本当に必要な中間支援団体とは？委託・協働事業、助成金を誰が、どのように活用して行うのか？これだけ複雑な社会にあって、リアルニーズに対して、適切な業務を進める能力を持ち、合理性が担保できるか否か、判断が難しい社会と思います。適正な判断をするのも受けるのも、私たちの日々の仕事と発信が重要なのでしょうか。

コロナも乗り越えました！ みんなで、精いっぱい頑張ってきた結果と思っています。



	収益	経費
第1期	73	1,467,562
第2期	24,979,407	23,425,168
第3期	25,892,653	25,428,891
第4期	29,867,375	30,901,993
第5期	37,748,046	35,503,080
第6期	26,272,909	25,425,256
第7期	28,912,951	26,237,507
第8期	32,588,335	30,992,843
第9期	30,373,579	30,749,174
第10期	28,713,210	29,395,576
第11期 (半期)	30,785,670	29,132,863

Annual Report Vol1~9 それでも、頑張った足跡がここに残っています



About us NPO法人として中間支援を続ける魅力と困難性

「幸福感受性」の胚芽を捲き、小さな芽を見出す時、私たちが実感する「しあわせ」がある



いろいろなしあわせ♡みんなしあわせ♡みんなでしあわせ♡



よこはま地域福祉研究センター 理事・スタッフ

2022/10/08現在



理事長
豊田 宗裕 Munehiro Toyoda



副理事長
佐塚 玲子 Reiko Satsuka



理事
武田 千香恵 Chikae Takeda



センター長
佐塚 玲子 Reiko Satsuka

法人事業統括責任者
各プロジェクト事業の推進と統合支援
地域福祉推進・共生社会構築研究



第三者評価事業 リーダー
武田 千香恵 Chikae Takeda

福祉サービス第三者評価
包括職員研修



事務局（社会福祉士）
手塚 揚子 Yoko Tezuka

横浜市地域包括職員研修
横浜市社会福祉職研修
法人コンサル



理事
松崎 吉之助 Kichinosuke Matsuzaki



理事
太田 貞司 Sadashi Ota



理事
加留部 貴行 Takayuki Karube



障害事業 リーダー
柿沼 陽子 Yoko Kakinuma

福祉サービス第三者評価
障害児・者の地域自立支援プロジェクト



子ども若者事業 リーダー
沼 佐代子 Sayoko Numa

こどもの地域生活支援プロジェクト
横浜市里親研修



サポートスタッフ
桜井 智代 Chiyo Sakurai

横浜市地域包括支援センター職員研修
横浜市社会福祉職研修
障害児・者の地域自立支援プロジェクト



理事
鳴海 美和子 Miwako Narumi



理事
及部 慶 Kei Oyobe



理事
原島 隆行 Takayuki Harashima



サポートスタッフ
石上 美和 Miwa Ishigami

事務サポート業務



子どもPJ サポートスタッフ
酒井 智子 Tomoko Sakai

こどもの地域生活支援プロジェクト



障害PJ サポートスタッフ
武川 理絵 Rie Takekawa

障害児・者の地域自立支援プロジェクト
経理サポート

理事

スタッフ

これまでの10年
本当にありがとうございました。
そして、新たなスタートに立つ
よこはま地域福祉研究センターは、更に歩みを進めます。

どうぞよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました